



## 松永久秀 篇2

### 先進的な城、その名も多聞城

久秀は、郡山市付近を治めていた筒井順慶と戦って勝利します。その勢いにのり大和盆地、東山内（大和高原）、宇陀市などにも攻め入り、その折に、澤城には、澤氏のかわりに久秀の家臣の高山友照が城に入っています。友照の息子である高山右近は澤城でキリスト教の洗礼を受け、父の友照は澤城に来る前に洗礼を受けています。久秀は、宇陀地域を含む大和を支配し、その拠点信貴山城（平群町）とします。

久秀は、居城として信貴山城を使用していましたが、本格的に奈良を支配する城として、現在の若草中学校（奈良市）に多聞城を築きます。記録によると天守のような階の櫓を建てたとされており、当時の城では、珍しく大量の瓦が使用されていたことが発掘調査で確認されています。

また城の様子を日本に来ていたポルトガルの医師アルメイダが、多数の塔が建てられていること、その塔や家に瓦が敷かれていたことを記録しています。戦国時代の城の建物は、板葺きのものが主流で、櫓も木材で組み立てたものが大半で、そのような城は、天下人の織田信長が滋賀県に安土城を築城するまで出現しません。久秀が城に瓦と本格的な建築物を建てたことは城に対して先進的な考えをもっていたと考えられます。

久秀は、多聞城の築城を完了すると長慶の息子義興と共に、主君長慶に敵対する勢力が滋賀県から京都へ侵攻しようとしていたので、これを追い出します。これにより、関西における長慶の勢力は安定化します。しかしそれは東の間のことでした。次回はそこから見ていきたいと思います。

